# 令和５年度学校評価（自己評価書）

樟 南 高 等 学 校

## １　はじめに

少子高齢化が急速に進行し、進学に関する価値観が多様化している社会において、中学生やその保護者から通いたい・通わせたい学校として選ばれるには、学校の特色をどのように構築するかが急務である。過去１５年間の評価を踏まえ、今年度は、「より特色のある学校づくり」という観点から、教育活動の成果や課題を明確化していきたい。

## ２　実施方法

今年度も引き続き、各部・学科・コース毎に年度当初に設定した評価項目について、それぞれの構成員が評価した。

評価者は管理職を除く本務職員９８名。

## ３　実施期間

令和６年２月２２日～３月８日

## ４　評価方法

⑴　評価の尺度：評価項目を５段階で評価する。

５：　かなり成果が上がっている。計画・実践ともよい。望ましい状況である。
４：　一歩前進している。ややよい。よい方向に進んでいる。
３：　普通である。
２：　努力を要する。問題点がある。一歩後退した。
１：　まったくできていない。

⑵　所見

よかった点や来年度の課題等を記述する。

５　結果報告

| 評価項目 | 評価者 | 評価結果 今年度 | 評価結果 昨年度 |
|---|---|---|---|
| 校務分掌等の組織運営の改善 | 教務部 | ４ | ４ |
| 挨拶や服装等のマナーアップ | 生徒指導部 | ４ | ４ |
| 個々の生徒理解と適切な支援 | 教育相談別室支援 | ４ | ４ |
| 生徒の能力・適性に応じた進路指導 | 進路指導部 | ４ | ４ |
| 難関大学への挑戦 | 特別進学指導部 | ２ | ４ |
| 募集定員確保のための組織運営 | 広報部 | ４ | ４ |
| 健康と安全の推進 | 保健部 | ４ | ４ |
| トイレ、階段、特別清掃区域の清掃の徹底 | 環境整備部 | ３ | ４ |
| 図書館の利用促進～貸し出し本の増加 | 図書館部 | ３ | ３ |
| 窓口での接客応対の充実 | 事務部 | ４ | ４ |
| 上級資格への挑戦 | 商業科 | ４ | ４ |
| 基本的な生活習慣の確立 | 〃 | | |
| 挨拶・服装指導の徹底 | 文理コース | ３ | ３ |
| 積極的に授業に参加する態度の育成 | 英数コース | ４ | ３ |
| 豊かな人間性の育成 | 未来創造コース | ３ | ３ |
| 授業への集中力の養成 | 〃 | | |
| 各種検定試験と資格取得への挑戦 | 機械工学コース | ３ | ３ |
| 資格取得、検定試験への指導の充実 | 電気工学コース | ３ | ３ |
| 三級整備士全員合格への挑戦 | 自動車工学コース | ３ | ４ |
| | 平均 | ３.５ | ３.６ |

評価の尺度

５：　かなり成果が上がっている。計画・実践ともよい。望ましい状況である。
４：　一歩前進している。ややよい。よい方向に進んでいる。
３：　普通である。
２：　努力を要する。問題点がある。一歩後退した。
１：　まったくできていない。

6　自己評価の総括

（　）昨年度の評価

⑴　校務分掌等の組織運営の改善（教務部）　評価４（４）

教務部の組織運営を円滑に進めるため、所属する先生方との業務分担を図った。「観点別評価」も２年目となり、先生方の評価も教科ごとに創意工夫がなされている。定期考査のような決められた期間に集中して努力した成果を評価する方法よりも、短い期間に単元テストなどにより、複数回、理解度を計る「観点別評価」は、教師側の授業方法や評価の工夫により、生徒の学力向上に帰する評価方法だと考えている。

出席簿などの電子化に関しては、令和６年度からの導入で進めていたが、システム構築に時間がかかり、一年先送りとなった。その分、先生方の業務改善を通じて、生徒と向き合う時間を増やすなど、生徒・保護者への還元に繋がるようにしたい。

⑵　挨拶や服装等のマナーアップ（生徒指導部）　評価４（４）

挨拶は良くできる生徒が増えてきている。外部の方々にも挨拶については好印象をもっていただけている。服装については、更衣期間がなくなったが概ね良好である。しかし、固定化した一部の生徒に服装の乱れが見られるので粘り強く指導していきたい。公共の場でのマナー等についても指導を行っているが、まだまだ改善が必要である。全体集会の場での聞く姿勢も改善されているので、樟南高校の良い伝統として指導を継続していきたい。

⑶　個々の生徒理解と適切な支援（教育相談別室支援）　評価４（４）

適応推進委員会で認定された生徒の管理体制については整えられてきつつある。生徒の多様化に伴い、個々の状況や症状が異なるので対応、指導が難化している。

本年度内の適応生徒は２２名(昨年度２５名)で、３年９名・２年５名・１年８名となっている。科コース別では、文理４名・英数７名・未来創造４名・商業６名・工業１名となっており、対応場所は、保健室６名、クオリティー８名、教室８名(復帰３名)である。

問題点としては､学力支援と教室復帰への助言指導の効果的な在り方があげられる。担任が積極的にかかわるとともに、教科担任・支援係との連携をより密にする必要があるが、支援係，担任の時間的なゆとりがない現状もあり、工夫が求められる。

⑷　生徒の能力・適性に応じた進路指導（進路指導部）　評価４（４）

本年度の求人数は、２,６８３名（県内企業から６０１名）求人倍率は３１．９倍（前年２４．７倍）で昨年より就職希望者が減ったため倍率は増加した。また、求人数も２０．７％増え売り手市場が続いている。就職者は９７名で、学校の紹介により８４名、公務員４名（防衛大学校１名、鹿児島県警察官１名、宮崎県警察官１名、自

衛官１名)、縁故９名で１００％の内定率だった。今年度から公務員模試を３回実施したり、商業・工業科へ企業説明会を実施し企業や職業に対する理解を深めたりしながら、各コース主任、担任を中心として生徒の能力や適性を見極め、丁寧な進路指導を進めることができた。県外希望者が３９名、県内５７名で県内希望が５８％と昨年より増加し、県内志向が高くなってきている。

来年度も人手不足は続くとみられるが、世界の状況など不透明な部分もあり、早めの取り組みを実施していきたい。

進学については、文理・英数を除き、国公立大学１１名、私立大学６９名、公立短期大学４名、私立短期大学１５名、専門学校７２名とおおむね良好であった。とりわけ、国公立大学１１名（特進ビジネス８名・未来創造３名）の合格は特筆に値する。一方、総合型選抜入試（旧ＡＯ入試)，学校推薦型入試（公募・指定校推薦）での不合格者もあり、進路希望実現のための学力・面接力向上の対策が必要である。

⑸　難関大学への挑戦（特別進学指導部）　評価２（４）

今年度の国公立大の合格者数は､特進ビジネスや未来創造を含めると９０名を超え、昨年以上の実績となったが、難関大学への受験希望者が少なく、また、育て上げることもできなかった。旧帝大への合格者が現役から１名出たことは、次年度への繋がりとなる。１・２年生には大学、学部、学科の研究をスタディーサポート、進路講演会等で深めさせていきたい。それらの研究をベースに、自分の力を客観的に判断しながら向上させる原動力をつけて、より早い段階での目標設定や取組の開始に結び付けたい。また、模試検討会などにおいて、個々の生徒の力量を理解するとともに、指導の在り方について検討を重ねて上位層の拡充を図り、難関校への受験者数や合格者数を伸ばしたい。

⑹　募集定員確保のための組織運営（広報部）　評価４（４）

今年度は、３，６００名弱の出願者数となり、中学校担当をはじめとする全先生方の協力と日頃の教育活動のお陰であると感じている。

新型コロナウイルス感染症が第５類に分類されたことにより、体験入学はコロナ禍前に近い形で実施し、延べ１，７００名を超える多くの中学生に参加してもらうことができた。一方、想定を超える申込みに対して準備が後手に回る部分もあり、計画段階を含めて改善が必要であるとも感じた。中学生・ＰＴＡの来校数も戻りつつあり、多くの先生方にも協力をいただくことで滞りなく実施することができた。

入試については、合格者のハードルを上げざるを得ない状況があり，来年度以降も中学校の先生方に理解を得られるように丁寧な広報活動を継続していきたい。

⑺　健康と安全の推進（保健部）　評価４（４）

５月に実施された新型コロナウイルス感染症の第５類への移行に伴い、学校生活や部活動等の行動制限が緩和され、少しずつではあるが通常の生活に戻った。体育祭・樟南祭・修学旅行・樟南マルシェ等の学校行事が開催され、保護者や地域の方々の参加も得て、生徒の笑顔や楽しそうな会話が校内に響いていた。卒業式は換気や感染症対策等を実践しながら、来賓・保護者同席で実施され、呼名に元気よく応えた卒業生の笑顔が印象的であった。爆発的な感染拡大が防げた理由として、日頃から換気や健康観察・手指消毒等の感染対策を充実させた結果だと教職員の取り組みに感謝している。来年度の課題は、感染症等の対策として、教職員・保健部を中心に教室や学校寮等で積極的に換気・手指消毒・健康観察等を行い、基本的な感染症対策を更に充実させることである。特に、最近、「はしか」の感染が全国的に拡大している状況にあるので注意しなければならない。

安全面では、学期ごとに校内安全点検を実施することで、校内施設や設備の修繕・改修工事等が行われ、生徒・教職員が安心して学校生活を送ることができている。特に、総合グラウンド改修工事により授業や部活動中の怪我が減少した。今後は、維持管理を徹底したい。また、校内設備の修繕・改修等については、学校安全点検により優先順位を考慮しながら、予算や補助金等を見据え、生徒・教職員が安心して安全に学校生活が送れるよう計画的に遂行していきたい。

学校薬剤師による、学校寮や学校施設等の環境衛生検査（水質・照度・二酸化炭素濃度等）が実施され、指導助言により環境衛生面の改善がなされている。

保健室利用については、進学希望の生徒が多様な悩みをかかえて利用するケースが近年増加しており、先生方で解決できない事案等も含まれている状況である。保護者やクオリティルームの職員と連携を密にしながら相談や指導をしなければならない。専門家（スクールカウンセラー）への相談件数も増加しており、来校回数・時間等を増やさなければならない現状である。

労働衛生員会が計画的に開催され、職場環境については、産業医よる指導助言や学園の協力で改善された点もあったが、まだ課題が多い。年間計画に従い、内容の充実を図りつつ、各部署と教職員が連携を図り、働きがいのある職場環境の改善に努めたい。また、ストレスを抱えて面談の必要生が生じている職員もいる。

来年度も、生徒・教職員が安心・安全に学校生活を送れるように、保健部を中心に健康と安全の推進に努めたい。

⑻　トイレ、階段、特別清掃区域の清掃の徹底　（環境整備部）　評価３（４）

女子トイレについては概ね良好であったが、男子トイレの清掃や廊下の手洗い場の清掃には課題を残した。生徒の清掃への気持ちの喚起や見届け評価の工夫が必要であると感じた。

階段については比較的良好であった。このままの清掃状況が続けば良いと思う。

その他の特別清掃区域については、廊下側のドアの吹き出し口やレールの清掃に留意する必要があると感じた。庭作業については落ち葉を掃いたり、草を抜いたり一生懸命取り組む生徒の姿が見られ良好であったと思う。

来年度は、先生と生徒が一緒に清掃に取り組む時間が増え、見届けをしっかり行い、学校が更に美化されるよう努力したい。

⑼　図書館の利用促進～貸し出し本の増加（図書館）　評価３（３）

朝読書週間が年二回実施されることはとても良い。読書週間が終わってからも本を借りに来る生徒が多く、本を身近に触れる良い機会であるので、読書週間以外における広報も充実させたい。選定委員会の先生方のおかげで、必要な図書を増やすことができた。次年度も、学期ごとに選定委員会を開いて、いち早く必要とする本を生徒に届けたいと思う。昼休みの利用者も多いので、学習スペースの活用を含め、マナーを守らせながら生徒が利用しやすい図書館づくりを心がけたい。

⑽　窓口での接客対応の充実（事務部）　評価４（４）

窓口業務は、来訪者及び保護者の本校に対する印象の良し悪しを決める事務室の大切な業務である。そのため、年度当初に事務室全員で来訪者・保護者への対応について共通理解を図ったうえで業務に当たっている。今年度は、年度途中での職員の異動もあり対応の手際がスムーズにいかない時期もあったが、年間を通すと丁寧で適切な対応ができたと評価している。生徒への窓口対応については、今年度も開放時間を拡大して、開放時間外でも随時対応するなど便宜を図ることができた。

総体的には、事務室全体としての窓口での接客や電話対応については、一歩前進し，良い方向に進んでいると評価している。来年度も、生徒・保護者対応への充実が一層図れるよう事務室全員の共通理解に努めていきたい。

⑾　上級資格への挑戦・基本的な生活習慣の徹底（商業科）　評価４（４）

基本的な生活習慣の確立については、服装、あいさつなど、声かけを行った。ほとんどの生徒は、男女とも指導によく従うが，女子の中に根気強い指導が必要な生徒がいる。基本的生活習慣が身についている生徒とそうでない生徒の差が大きい。今年限りではあったがアクティブタイムを利用したビジネス実務マナー検定は、普段のマナーも扱っているので、資格取得を通して生活習慣などを客観的に学ぶ一つの方法であると思った。職員間の指導の温度差を改善し、よい所は褒め、なされてない部分は内面から成長できるよう、再度共通理解を深めて温かく支援しながら心に届く指導に取り組んでいきたい。

上級資格への挑戦については、３年生が課題研究を通して、資格取得を目指し意欲

的に取り組んでくれた。全商簿記検定１級・情報処理検定１級や日商簿記検定２級等の取得に向けて努力し、よい結果をおさめた。特に、簿記部に所属している生徒が日商１級に合格したことは評価に値する。また、２年特進コースのマーケティングの授業に取り組む姿勢はとても良く、検定の結果も良かった。しかし、１年の簿記に関しては、毎日のように欠席する生徒があり、理解できている生徒と理解していない生徒との二極化が顕著に表れた。職員が、複数授業をもっていることで簿記検定等に向けて放課後に重点的に指導ができなかったので、商業科の全教員で簿記を担当すれば生徒へのサポートが可能になり、合格率が上がるのではないかと思っている。

今年度は、授業を充実させることで期待どおりの合格者を出すことができた。特に、上級資格取得や小論文指導などが、８名の国公立大合格や難関私立大合格などの進路実現につながった事は特筆に値する。

今後は、習熟度編制の導入を検討するとともに、ＩＣＴを活用しながら生徒の学習意欲を喚起する授業を展開して個々の学力向上に努め、上級資格取得を図りたい。

⑿　挨拶・服装指導の徹底（文理コース）　　評価３（３）

授業時及び普段の挨拶は、ともに良くなってきているが個人差があった。コロナ禍の中、声を出すことをためらっていた時期が長く、結果としてうまく指導が行き届かなかったところがある。服装面では、他校生や他コースの生徒の範となるような姿も見られ評価したい。服装の乱れは，生活や心の乱れの表れであり，延いては成績の低迷にも繋がりかねないので、全職員で声掛けをしていくことが大切である。

⒀　積極的に授業に参加する態度の育成（英数コース）　　評価４（３）

昨年度に比べ、コロナによる制限がなくなったことで授業展開にも良い変化をつけることができた。内容は教科・科目によって異なるが、例えば、アクティブラーニングやグループでのプレゼンテーションなど生徒同士が協力しながら活動する機会を以前よりも多く設けることができたこと、タブレット端末などＩＣＴ機器の活用により、授業内外での情報共有が図られ生徒の理解度を深められたこと、ＡＬＴによる英語の授業を実施することができたことなどが挙げられる。また、日頃からの教師の声掛けや授業中での発問などの工夫が功を奏し、事前準備やチャイム着席など、授業に臨む姿勢づくりや居眠りなどの改善、予習や小テストなどに対する意識改善、朝自習の充実がなされた生徒も増えつつあるが、今後も引き続き教師がこれらを意識し、自律した生徒がより増えるよう努めていきたい。

コース全体では、外部講師を招いての特別授業や講演会により、生徒の意欲を喚起するとともに視野を広げる機会を設けることができた。また、単語力テストや漢字力テストの結果を上げることができた学級もあった。

一方，改善すべき課題は昨年度に比べ増加し、生活リズムの乱れや精神的なものな

どに起因する一部の生徒たちの進路変更、欠席や遅刻、居眠り、その他学習意欲の低下による学習課題の不消化、授業時数減少による授業進度維持の困難さなどが挙げられる。教師に求められているものは、時代の流れや新課程への移行に伴い複雑化しており、教科・科目の枠を超えて生徒を教え導くこともその一つと言える。教師自身が研修によりスキルアップに努めるという意識を持ち続け、実践して生徒へ還元していきたい。併せて、今後も、教材準備・チャイム着席などの授業に向かう姿勢づくりに代表される基本的事項の指導や予習・復習・提出物に対する見届け指導を継続するとともに、授業における教師の丁寧な説明や発問の活用などの徹底も図りたい。

目標達成や自己実現のために、自律した高校生活を送ることができる生徒が増えつつあり、全体的に頼もしい印象を受ける。しかし、注視してみると何らかの不安や悩みを抱えている生徒が少なくない。精神的安定を図れずに感情に左右される、あるいは実力が発揮できないといった状況が時として現れるその場面を見過ごさず、特に不登校への早期対応を図りたい。生徒を取り巻く環境が多様化している状況下で、教員自身が生徒観や指導の在り方を再構築するとともに、常に指導法のアップデートを図りながら、生徒と共に少しでも多くの課題を乗り越えられるよう努めていきたい。

⒁　豊かな人間性の育成・授業への集中力の養成（未来創造コース）　評価３（３）

「豊かな人間性の育成」に関しては、昨年度２回しか実施できなかった「未来塾」を年 6 回開催することができた。起業家などの講演は生徒達にも響いたようで、社会への関心を高めることができた。特に、ビジネス書ランキング一位の永松茂久さんを招いた講演会では、生徒の中に数名の読者がおり、本からは読み取れない詳しい内容まで学ぶ機会となって感動している姿が印象的であった。

「授業への集中力の養成」に関しては、新３年生に初めて、大学進学と専門学校・公務員を含む就職などの進路希望によるクラス編成を行った。集中力のあるクラスではスムーズに授業が進み、コースとしては記録となる３名が国公立大学に合格した。しかし、クラスに差があり、集中力が続かないクラスではなかなか発展問題までたどり着けないという状況も見られた。今年度からスタディサプリを導入したことにより、宿題提出率はどのクラスでも非常に高くなっている。先生方がスタディサプリを活用した授業等で基礎学力向上の事例などを共有することにより、学習意欲の更なる向上が図られるものと期待している。

。　また、未来創造コース独自の進路ガイダンスを２回実施し、１・２年生の進路意識を早めに高めることができたので、来年度は反省を生かし、時期や内容の検討を行い更に良いものにしていきたい。

⒂　各種検定試験と資格取得への挑戦（機械工学コース）　評価３（３）

全国工業高校ジュニアマイスター顕彰制度については、「ゴールド」０（昨年度２名)、「シルバー」２名（７名)、「ブロンズ」０（３名）と昨年に比べ、残念な結果となってしまった。今まで以上に３年生は進路決定後も上級資格にチャレンジし合格したが、ゴールドに今一歩及ばなかった。

良かった点としては、機械工学コースの目標の一つである危険物取扱者試験乙種４類の合格率が、２学年で昨年度と比べ良くなったことである。ここ数年、合格者が少なく毎年の課題となっていたので､今年度の取り組みを次年度にも継続していきたい。１年次より、資格取得への意欲を持たせ、学年が進むにつれ上級資格に挑戦させる流れを作ることに関しては、今年度も成功していると思われる。

⒃　資格取得、検定試験への指導の充実（電気工学コース）　評価３（３）

年々、資格取得に対する生徒の気持ちにバラつきが見られており、ほとんどの資格において全員受検、全員合格までもっていくことが出来なかった。今年度の全国工業高校ジュニアマイスター顕彰制度の結果は、特別賞が１名、ゴールドが４名(昨年度２名)、シルバーが６名（４名)、ブロンズが５名（３名）であった。第１種電気工事士は１名の合格、第２種電気工事士は８名(うち、２年生５名)の合格であった。

２、３年生で資格に対する意欲に若干差が出てしまったが、共通する課題として、合格を取りこぼした生徒への対応がうまくいかず、上級の検定において取得意欲の統一ができなかった点が挙げられる。今後は、資格取得に対する意欲向上を更に図りながら、充実した指導ができるように努力していきたい。

⒄　三級自動車整備士全員合格への挑戦（自動車工学コース）　評価３（４）

今年度の全国工業高校ジュニアマイスター顕彰制度の結果は、ゴールドが１名(昨年度４名)、シルバーが５名（１名)、ブロンズが４名（０名）であった。三級自動車整備士の合格率は、ガソリン６７％・ジーゼル８３％・シャシ７１％でガソリンの合格率が伸びなかった。受験の前に実力考査を実施する等合格率向上に向け今後も指導の改善を図りたい。生徒の意識づけやモチベーションを継続させる方法等、生徒と常にかかわりを持ちながら自信を持たせていきたい。

令和７年度から新試験への課程に変更になるので、教材研究やコース内研修等、教職員自身が生徒の手本となる研修等を行ってレベルアップを図り、生徒の資格取得へと繋げたい。

7　まとめ

本年度の教育目標には、以下の５点が掲げられている。

⑴　建学の精神「博文約礼」と、校訓「進取　友愛　誠実」の具現化を図る学校づくりに努める。

⑵　「私学の教職員」であることを強く意識し、一人一人の生徒を大切にし保護者の期待に応える信頼される教職員により、豊かな発想に基づく創造性に富んだ学校づくりに取り組む。

⑶　充実した授業実践により、確かな学力の定着を図り、生徒の進路希望実現を支援する。

⑷　学校の「不易流行」を熟慮し、バランスの取れた学校改革に取り組む。

⑸　一人一人の生徒や保護者に向き合う特別支援教育を推進する。

さらに、教育目標を実現するための努力目標を次の８点定め、本年度の教育の指針とした。①特色のある学校づくり　②授業の充実と学力の定着　③高いレベルで文武両道に取り組む生徒の育成　④確固たる目標を持って上級学校や職場への進路希望実現を目指す生徒への積極的支援　⑤基本的な生活習慣の確立と心身共に健康な生徒の育成　⑥教育環境の整備と美化　⑦創意工夫のある広報活動の展開　⑧新たな時代の学校改革の推進

この８点の観点により、本年度の教育活動の総括をしたい。

努力目標の①は「特色のある学校づくり」である。生徒指導部が挨拶・服装のマナーアップを提唱し、普通科や商業科で豊かな人間性の育成や挨拶・服装指導の徹底等に取り組んできた。ほとんどの生徒の基本的な生活習慣は確立されているが、一部に服装や頭髪で注意を受ける者がいる。車での来校者や職員に対する「立ち止まっての挨拶」は、部活動生以外にも広まっている。挨拶や服装は、人間力の基本であり、入学希望者の増加の主要因の一つであることを再認識させ、部活動生が更にリーダーシップを発揮して、人間性豊かな校風の醸成に努めるよう継続的に指導したい。

特別支援教育については、「個々の生徒理解と適切な支援」を項目に挙げ、教育相談係を中心に取り組んできた。クオリティルームでのきめ細かな指導が礎ではあるが、認定者が増加しているので、それぞれに進路の意識を醸成させることが鍵である。それが教室復帰への足掛かりになると思われるので、担任・教科担任との緊密な連携や生徒とのより深いかかわりが不可欠になろう。

未来創造コースでの進路に関する講演会「未来塾」を始め、スキットコンテストや中国・韓国を学ぶ国際文化理解などの取り組みは本校教育の特色の一つと言える。今年度も、感染症対策により、職場体験を始め、スキットコンテストなどコースを代表する行事が開催できなかった。ただ、未来塾は６回実施することにより、進路への意

識の醸成を図ることができたので、今後も更に拡充したい。

豊かな人間性の育成に資するために、平成元年に始まったボランティア活動は、コロナ禍により中断を余儀なくされているが、数年ぶりに開催された商業科主催の「樟南マルシェ」には、３千人近くの来場者があり、本校の主要な地域貢献活動として特色ある教育活動となっている。また、工業科の LED を駆使した課題研究の作品展示も地域の冬の風物となっており、来年度の更なる充実に期待したい。

②の「授業の充実と学力の定着」については、英数コースが「積極的に授業に参加する態度の育成」を目標に、アクティブラーニングの機会の増加を図るとともに、ICT 機器やデジタルコンテンツの活用により興味・関心を喚起させ理解度を深めることができた。また、ALT の活用が可能となり英語学習への意欲が高まった。今後もこれらを授業への取り組みの積極性向上に繋げたい。また、未来創造コースが「授業への集中力の養成」を評価項目に挙げ、進路希望によるクラス編成を行った。進学希望のクラスから３名の国公立大合格者が出たことは評価に値するが、理解力や集中力の差への対応に苦慮している。昨年度末から利用可能になったスタディサプリを活用させたり、ICT 機器を駆使したりして生徒の意欲向上を図りたい。

③の「高いレベルで文武両道に取り組む生徒の育成」については、進路指導部が「生徒の能力・適正に応じた進路指導」を、特別進学指導部が「難関大学への挑戦」をそれぞれ評価項目に掲げた。就職については、学校への求人票により８４名、公務員４名、縁故９名で１００％の内定率だった。来年度も人手不足は続くと思われるが、今後の社会情勢を見据え早めの取り組みに努めたい。

進学については、文理・英数を除き、国公立大学１１名、私立大学６９名、公立短期大学４名、私立短期大学１５名、専門学校７２名と良い結果を挙げた。特に、国公立大合格の特進ビジネス８名と未来創造３名は今後への有益な指針となろう。

特別進学部については、文理コースが、九州大・鹿児島大医学部医学科など難関大への合格者を出したものの、難関大学の受験希望者が少なく、育て上げることもかなわなかった。英数コース等と合わせて国公立大学に９０名以上が合格し、例年に勝るとも劣らぬ結果を出しているが、文理・英数の両コースとも、医・歯・薬・看護系の希望者が増えており、これまで志望と学力のギャップに苦戦を強いられた者も少なくない。大学・学部・学科研究を深め、進路を早期設定するとともに、その実現に資する難易度を掌握し、バランスのとれた基礎力の定着に取り組ませたい。また、新課程に準じた国公立大学推薦入学制度への対応策構築も急務である。

④の「確固たる目標を持って上級学校や職場への進路希望実現を目指す生徒への積極的支援」については、普通科未来創造コースや文理・英数コースで、これまで、進路指導のスペシャリストによる講演や先輩の講話を聴く機会を設け、生徒の目標設定の一助となっている。また、未来創造コース、商業科、工業科の職場体験も学科によっては復活の兆しが出てきており、進路指導部主催による、進路ガイダンスも学年別

に実施できたので、生徒は具体的な説明を受けて進路の探究に資する行事となった。

商業科では、受検級の難易度別班編成により、日商簿記２級、医療事務２級や全商３種目１級などの上級資格に合格している。国公立大への道を開拓すべく開設された特進ビジネスコース１期生が、８名合格し、素晴らしい成果を挙げて、後輩への道標となったことは特筆に値する。

工業科においては、機械・電気・自動車の全コース合計で全国工業高校ジュニアマイスターの「特別賞」１名（昨年度１名）・「ゴールド」が５名（８名）・「シルバー」が１３名（１２名）・「ブロンズ」が９名（１１名）であり、「シルバー」以外の階級でやや減少した。進路決定後の挑戦者数の増加や新たな検定への挑戦も来年度の課題の一つであろう。

今後も、すべての科・コースにおいて、生徒に自らの将来を見据えた資格取得の重要性を自覚させ、３年間を見通した進路意識の醸成に努めるとともに、意欲不足の生徒をどのように巻き込み相乗効果を生み出すか、日頃の授業や教材を更に研究し、専門的な知識の定着を目指して１年から段階的に指導していきたい。

⑤の「基本的な生活習慣の確立と心身共に健康な生徒の育成」については、保健部主導の日々の健康観察により健康状態の把握がなされており、感染症予防や精神的な悩みの解消も継続的努力により管理がしっかりとなされている。

新型コロナウイルス感染症が第５類に移行され行動制限の緩和など通常の生活に戻ったが、教室・体育施設・寮などの消毒が恒常的になされクラスター発生を防止できたことは評価に値する。今後も、換気・手洗いなどに自主的に取り組ませたい。

心身の不調を訴える生徒が増加傾向にあるので、保健室とクオリティルームとの連携を図り、スクールカウンセラーのご支援を受けながら、心の健康に資するサポートの在り方の研究を深め、個々の生徒が進路目標を見据えることで楽しく学べる環境づくりに努めたい。また、生徒が自ら基本的生活習慣を確立することにより、心身の健康を維持できるよう努めさせたい。

⑥の「教育環境の整備と美化」については、環境整備部が目標の一つとして、「トイレのきれいな学校づくり」を掲げている。清掃点検により、女子トイレは良好さが維持されているものの、男子トイレには課題が残っているとの報告がなされている。ゴミステーションへ持ち込まれたゴミに分別不足が指摘されることもあるので、分別などについて意識の徹底が求められる。

⑦の「創意工夫のある広報活動の展開」については、広報部が「募集定員確保のための組織運営」を項目に掲げ、３,５００人を超える出願者数確保を達成した。Web出願も定着し業務の効率化も図られた。ただ、コロナの５類移行に伴い、全ての行事に従来の対応の復活が求められ、体験入学の希望者の増加も手伝って苦慮した業務もあったが、ほぼ予定通り遂行することができたので、入学者の増に繋がったと思われる。来年度は、あらゆる事態を想定の上、従前より進展した業務遂行に努めたい。

⑧の「新たな時代の学校改革の推進」については、創意工夫ある教育活動として地域に貢献してきた３０年を超える特別養護老人ホームでの女子ボランティア活動は、今年も感染症予防のため休止を余儀なくされた。一方、「樟南マルシェ」、マックスバリュ武岡店への木製ベンチなどの提供や学校周辺の清掃活動を行う男子ボランティア活動などは継続されており、地域貢献の意識醸成に資する活動として評価したい。

国際文化理解を目指した中国語・韓国語や英語に関する総合的な探究も新たな時代を見据えた教育活動であり、ALT の活用を含めて更なる充実した運営が望まれる。

今後、学校改革に向けた特色ある教育活動を推進するためには、「働き方改革」を踏まえた効率的な業務遂行が必然となる。各教室に設置された最新鋭のプロジェクタとスクリーンを活用して、授業への ICT 活用推進も図れるようになっているので、これからも、「自立」する生徒の育成を目指して、ICT を駆使しつつ、創意工夫に充ちた樟南独自の教育活動を展開したい。

今、進学に係る高校教育は、「高大接続改革」を中心に大きな転換期を迎えている。「大学入試センター試験」に代わる「大学入学共通テスト」には、新たに「情報」が追加されることになり、また、各教科の出題内容も大きく変容してきている。

生成 AI の出現など情報化社会の急速な進展や少子高齢化・グローバル化などにより、現在の中高生が社会で活躍を求められる頃には、社会のニーズは我々の想像をはるかに超えるようなものになっていることは想像に難くない。このような時代においては、「自ら問題を発見し、それを他と協力して解決する資質や能力が求められる」ということが、この接続改革のベースになっており、共通テストでは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」をバランスよく評価することが求められている。従って、高校生活においては、自らの力で考えをまとめたり、相手が理解できるよう根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力を培うことを常に意識しておくことが極めて重要である。

新学習指導要領の総則では、全教科について、教科ごとに「何ができるようになるか」を明確化し、「生徒が主体的・対話的に参加することにより、深い学びを得られるような授業に改善しなければならない」としている。そのため、教員には、生徒の思考を深めるため、発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められている。

今年度、１・２年生には、新学習指導要領に準拠した教育課程や教育内容に基づき、次の３つの観点別による評価を行った。一つ目の「知識・技能」や二つ目の「思考・判断・表現」については、定期考査等を中心に評価し、三つ目の「主体的に取り組む態度」については、従来の平常点に相当する提出物、発表、グループ活動や生徒自身の自己評価などを評価してきた。導入２年目である教務システムとの連携という面に課題も散見されたので、全学年が評価の対象となる来年度は、それらのシステムを改

善して生徒にとってよりよい評価となるよう研修を深めたい。

また、新入生は、中学校での活動を記録した「キャリアパスポート」を携え入学してきている。本校では、「樟風」と銘打ち、文部科学省の指針に沿って独自の「キャリアパスポート」が作成できるよう整備されているが、まだ活用にバラツキがある。高校では、生徒に年度当初の目標を設定させるとともに、それぞれの目標に沿った活動を詳細に記録させておく必要があり、教員も、生徒たちの卒業後の進路を視野に「キャリアパスポート」を蓄積しておかねばならない。来年度は、生徒全員が各自の iPad をキャリアパスポート作成に駆使できるよう統一した時間を設定するとともに、コースの実情に合わせて Classi やスタディサプリでの学習を推進し、アプリを活用した自主学習の習慣を確立して学力向上に繋げたい。

生徒の進路希望を実現させるためには、教職員が、「キャリアパスポート」の活用を念頭に、進学希望者には、早期に目標設定をさせるとともに、入試改革を踏まえた各コース独自の学習法の研修を行い、教科バランスの維持を図ることが急務である。就職希望者についても、早期の目標設定と就職後に有用となる資格や技術の修得を目標に各種検定や実習への積極的な取り組みが求められる。

今後は、全科・コースが連携しながら、教育内容・方法・評価の刷新を図り、「共通テスト」への対応力の養成を図るとともに、学校推薦型や総合型選抜入試を活用しての国公立を含む大学進学や公務員への道の構築に努め、多様化する生徒・保護者のニーズに応えられる学校という評価を確立したい。そのためには、生徒が「がんばれば感動」というモットーの具現者になることが不可欠である。それを可能にする牽引者となるのは教職員にほかならない。生徒により多くの感動を与え、誰もが通いたくなる名門校の創造を目指し、全職員による共通実践を継続することが肝要である。